

炭頂部落

台東・海端



山すそに広がるアワ畑、ブヌンの歌を歌い継ぐ



炭頂部落は海端郷の山腹に位置します。アワ畑に台湾キノアが混在し、遠くから見ると、金色とえんじ色の美しい階段のような眺めが広がります。

文化の伝承を続けていくことを使命として、「蓋亞那工作坊」がこの美しい部落の中に誕生しました。ブヌン族の画曆（祭事録）、アワの料理、植物染め工芸を特色とする一日及び半日体験コースがあり、遠くから訪れた旅人に部落観光の魅力を余すことなく伝えています。

ブヌン族の飲食伝統を探し求め「蓋亞那工作坊」の胡天国さんは様々な困難を克服し、部落でのアワ栽培を復活させ、伝統料理を再現しました。部落で昔ながらのアワ料理を味わい、ようやく再現された伝統の味への思いに感動を味わっていただければと思います。

1943年、民俗音楽学者の黒沢隆朝が、炭頂部落を訪れ、今では著名なブヌン族の八部和音（Pasibutbut）を聞き初めて記録に残したことで、この部落が「八部和音」発見の地とされています。胡天国さんは、伝統音楽を保存し、このアワ田の中で歌い継がれていけるよう「炭頂布農古調合音団」を立ち上げています。